

クリスマス

小川政弘作 「クリスマス物語」

(音楽) (賛美歌「久しく待ちにし」)

第1幕 メシヤ待望の歌

聖書朗読(男) やみの中を歩んでいた民は、大きな光を見た。死の陰の地に住んでいた者たちの上に、光が照った。(イザヤ 9:2)

ナレーション これは、まことの神様を見失って、異国の地に捕らわれの身になっていたユダヤの民に、預言者イザヤを通して、キリスト誕生の 700 年前に与えられた、神様の約束です。そう、暗黒の中に、彼らは一筋の光、メシヤ＝救い主を待ち望んだのです。

聖書朗読 それゆえ、主自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名を「インマヌエル」と名づける。

ナレーション インマヌエル、神我らと共にいます。しかし、神様の約束の 때가満ちて、待ち望んだ救い主がお生まれになった時、人々はどうしたのでしょうか？

第2幕 乙女マリヤ

ナレーション 時は移り変わって、イザヤの時代から 700 年後、ユダヤはローマ帝国の支配下にありました。ここはユダヤ北部のガリラヤ地方の小さな田舎町、ナザレです。

(効果音) (戸外。小鳥のさえずり)

マリヤ(モノローグ) まあ、なんて美しい朝なんでしょう！ 大地はたっぷり水を吸って、こんなに青々と草木が生えて。(大きく息を吸い) ああ、このユリの花の香り。小鳥たちのさえずり。このナザレにも春が来たんだわ。

女友達 マリヤ、またヨセフさんからのおことづけよ。いつもの村外れで待ってますって。いいわね、マリヤ。結婚式はいつなの？

マリヤ (小さく笑って) そのうちね。どうもありがと。今行くわ！ (モノローグ) さあ、急いで支度しなくちゃ。

天使 マリヤ。

マリヤ(モノローグ) おや、まただれか呼んだようだけど…。気のせいかしら。

天使 (エコー) マリヤ。

マリヤ は、はい。しもべはここにおります。

天使 おめでとう、恵まれた人よ。主があなたと共におられます。

マリヤ え？ あ、あの、それは…。

天使 怖がらなくてもいいのです、マリヤ。わたしは神のみ使いガブリエルです。神様があなたにすばらしいことをしてくださるのです。あなたはすぐに身ごもり、男の子を産みます。その子を“イエス”と名づけなさい。彼はとても偉大な人になり、“神の子”と呼ばれます。彼は永遠にイスラエルを治め、その国はいつまでも続くのです。

マリヤ(モノローグ) わたしが、このわたしが神のみ子の母に?!…でも、どうして子供ができましょう。まだ結婚しておりませんのに。

天使 聖霊の神様があなたに下り、神様の力があなたを覆うのです。マリヤ、神様の約束は必ずその通りになるのですよ。

マリヤ わたしは主の召し使いにすぎません。何もかも主のお言いつけどおりにいたします。どうぞ今言われたとおりになりますように。

(モノローグ) 夢かしら？ いいえ、夢じゃないわ。わたしが神のみ子を身ごもるんですって?! だけど、村の人たちが知ったらどうなるかしら？ 結婚もしていないわたしに赤ちゃんができたことを知ったら、律法どおり石で打たれて殺されるかもしれないわ。…いいえ、神様が守ってくださるでしょう、きっと。でも、ヨセフが、ヨセフがこのことを知ったら…。ああ、どうしよう。こんなこと、いくら言ったって信じてもらえっこないわ。「わたしは聖霊様によって身ごもったんです」なんて！ もしそうなったら、彼は怒って、悲しんで、わたしを捨てるかもしれないわ。…でもこれは主がなさることだわ。神様にはできないことはないんですもの。ああ、神様、信じます！ こんな取るに足らぬ罪深い者でもよろしいのでしたら、どうぞこの身を用いて、み栄えをお現しく下さいまし。

### 第3幕 ベツレヘムへ

(効果音) (群集のガヤ)

男1 またローマ皇帝のお触れだ。やれ税金の値上げだ、やれ労働だって、全くおやかましいこった。今度はなんだね？

男2 えーと何々？ 「全ローマ帝国の住民は、それぞれの先祖の地に帰って住民登録をすべし。皇帝アウグスト」だと。あーあ、面倒なことになったぜ、こりゃ。

男3 おれたちは根っからのナザレツ子だからまだいいが、ヨセフ、お前さん、身重のマリヤを抱えてどうするね？ あんた、確か王家の血筋だから、このお触れだとユダヤのベツレヘムまでの長旅だぜ。気をつけてな。

ヨセフ ああ、ありがとう。マリヤ、つらい旅になるけど、我慢しておくれ。

マリヤ 大丈夫ですわ、ヨセフ。あなたはわたしの言葉を信じて結婚してくださったんですもの。神様にお任せして、どこまでもあなたに付いてまいりますわ。

ナレーション こうして二人の、ベツレヘムへの数百キロに上る旅が始まりました。野を越え、

谷を渡り、だんだん臨月が間近になったマリヤにとっては苦しい旅でした。

マリヤ あ、おなかが、苦しい…。

ヨセフ 大丈夫界、マリヤ。もう少しだ。この人たちのあとに付いて、この峠を越えれば…。あともう少しだよ。——あ、ああ、あれだ。あの町の灯を見てごらん、マリヤ。ベツレヘムだよ！

ナレーション こうしてやっと目指すベツレヘムへ着いたものの、人口登録に各地から来た人でごった返していました。

(効果音) (ドアのノック)

ヨセフ ごめんください。こんばんは。

宿屋1 はいよ。旅の人、あいにくだがご覧のとおりさ。満員だよ。

(効果音) (ドアのノック)

ヨセフ こんばんは。はるばるナザレからやってきたんだ。一晩でいい、泊めてくれないか。

宿屋2 さあてね。あたしら夫婦でさえ、どこに寝ようかと思ってんだよ。悪いけど、ほかを当たってくださらんか。

マリヤ ヨセフ、あそこはどうかしら。町外れにポツンと離れて灯が見えるけど。

ヨセフ よし、行ってみよう。

(効果音) (ドアのノック)

ヨセフ ごめんください。開けてください。

(効果音) (ドアが開く音)

宿屋3 今時分、だれかね？ おやおや旅の人、どうなされたかね？

ヨセフ 町中いっぱい、どこにも泊まる所がないんだ。なんとか泊めてもらえまいか。

宿屋3 それは気の毒だが、うちもみんな相部屋で、ぎゅうぎゅう詰めなんだ。どうにもできんねえ。

ヨセフ お、お願いだ。ご覧のとおり妻は身重で、これ以上動けない。どこでも、土間の隅でもいい。なんとか泊めてください。頼む！

宿屋3 おお、それは大変じゃのう。さて、うちで空いているのは、離れの馬小屋ぐらいのもんだが…。

ヨセフ ああ、そこで結構だ。お願いするよ。

(効果音) (木枯らしの音)

ナレーション こうして二人は、家畜小屋に泊まることになりました。

ヨセフ さあ、マリヤ。ここにお休み。疲れただろう。でもほら、神様がちゃんと備えてくださった。主はどんな時にも共にいてくださるんだ。

(効果音) (赤ちゃんの泣き声)

ナレーション まことの救い主がこの世に来られた時に、このお方を迎え入れたのは、むさくるしいワラの寝床でした。罪に満ちた人の心にも似た宿屋には、神のみ子を

迎え入れる場所はなかったのです。

#### 第4幕 羊飼

- 羊飼い1 お一、寒<sup>さむ</sup>！今夜はめっぽう冷えるなあ、おい。骨まで染みるぜ。
- 羊飼い2 全くよ。こんな夜は家に帰ってよ、熱いシチューでも食べて布団に潜り込みてえなあ。
- 羊飼い3 羊たちもよ、ほら、体寄せ合って丸くなってるぜ。オオカミのやつらもこんな夜は出てこねえだろうよ。——あれ、真夜中だったのに、やけに明るくなったぜ。
- 羊飼い1、2 (口々に) そう言やあ、あれ… なんだ？ あれ… あ〜〜！
- 天使 (エコー) 恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。  
今日、ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主、キリストです。あなたがたは、布に包まって飼葉おけに寝ておられるみどり児を見つめます。これが、あなたがたのための印です。
- 天使(数人) いと高きところに栄光が神にあるように。地の上に平和が、み心にかなう人々にあるように。
- 羊飼い1 ……あー、おったまげた。夢か、おい。
- 羊飼い2 夢じゃねえよ。おれも確かに見た。聞いたよ！ あれは神様のみ使いだ。するてえと…。
- 羊飼い3 そうだよ！ 待ちに待っていたメシヤ、救い主が生まれたんだ！ ダビデの町、ベツレヘムだ。おい、あの町の馬小屋を片っ端から探すんだ。行こうぜ！
- ナレーション こうして彼らは、マリヤとヨセフと、飼葉おけに寝ておられるみどり児とを探し当てました。それを見た時、羊飼いたちは、この幼子について告げられたことを知らせました。
- マリヤ ヨセフ、お聞きになって？ 神様は、救い主の母として、こんな田舎娘のわたしを選びになったわ。そしてこのお方をお祝いに来てくださったのも、この貧しい羊飼いの人たち。やがてこのお方も、わたしたちのような名もない、貧しい、そして病や罪に苦しんでいる人たちのための、救い主になられるのかもしれないわね。
- (音楽) (賛美歌「荒野の果てに」)
- ナレーション 羊飼いたちは、見聞きしたことが、全部み使いの話の通りだったので、神をあげめ、賛美しながら帰っていきました——。
- (音楽) (「インエクセルシスデオ」高まって。)

<完>